

6 近視、遠視はこうして判別する



一般に、視力が低下してくると近視になってしまったと思う人が多いようですが、視力低下には、屈折的要因、内科的要因などが考えられ、近視のほかには遠視、弱視あるいは乱視の場合もあります。まず近視の判別法ですが、近くの物は見えるのに、遠くの物が見えにくい目を近視といいます。本を読んだり勉強しているときには長い間近く物を見続けていられるのに対し、遠くの物を見ようとするときに、目を細めたり顔を左右に動かしたりして、見づらそうにしているようなら、近視と思ってよいでしょう。

また、赤い色が見やすかったり、凹レンズを使用したときに物が見えやすかったり、凹レンズを装用したときに物が見えやすくなるようであれば、近視の傾向があると考えられます。

次に遠視ですが、これは近くも遠くも見えにくい目をいいますが、裸眼視力が良くても遠視だとい

いう人もいます。ただし裸眼視力が良くても悪くても、物を見るときに、絶えず目の遠近調節の機能を働かさなければならぬので、調節性眼精疲労を起こし、ふつうの人よりも目が疲れやすくなります。

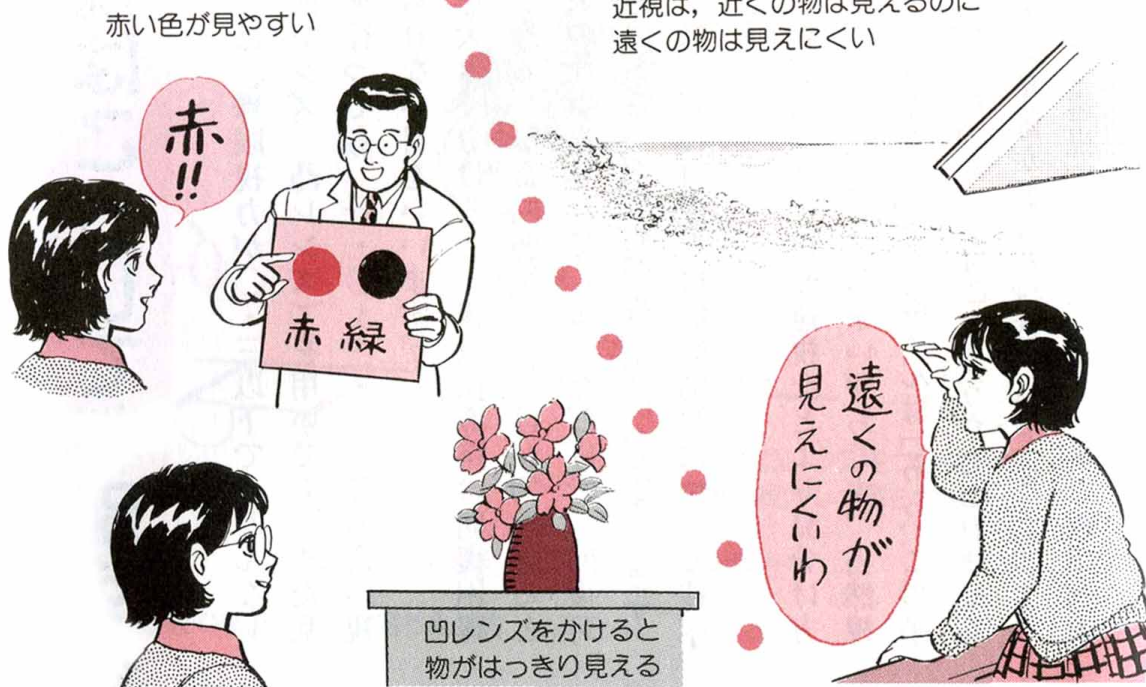
近視と違って本を読むのも苦痛になり、お絵かきや工作などもすぐにやめてしまい、飽きっぽくて、何事にも大きっぱなタイプになります。近視と同じように赤緑表を見せ、緑色が見やすいようであれば、遠視ではないかと考えてください。凸レンズをつけたときに良く見え、疲れがとれるようであれば間違いなく遠視です。

子どもの目の使い方や性格、態度をよくつかみ、視力低下の原因を調べて早期に専門医に診てもらい、それに合った治療、または訓練をすることを勧めます。

近視、遠視を判別するには？

●近視の判別法●

近視は、近くの物は見えるのに遠くの物が見えにくい



●遠視の判別法●

遠視は近くも遠くも見えにくい

